

～ 出演者の紹介 ～

ヴァイオリン **大谷 康子** Yasuko Ohtani



©Yukisuke Fushimi

2025年にデビュー50周年を迎え、サントリーホール大ホールにてデビュー50周年記念演奏会を開催。5月にはデビュー50周年記念全国ツアー（ピアノ：イタマール・ゴラン／全14公演）を開催。これまでにリサイタルはもとより、N響、スロヴァキア・フィルなど国内外の著名なオーケストラと多数共演。キーウ（キエフ）国立フィルとは2017年以降毎年招聘されている（情勢により中断）。著書に「ヴァイオリニスト 今日も走る!」（KADOKAWA）がある。CDも多数リリース。BSテレ東（毎週土曜朝8時）「おんがく交差点」では司会・演奏を務める。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。元東京芸術大学客員教授。元東京芸大ジュニア・アカデミー特別教授。（公財）練馬区文化振興協会理事長。川崎市市民文化大使。高知県観光特使。（公財）日本交響楽振興財団理事。（公社）日本演奏連盟常任理事。使用楽器は日本音楽財団より貸与のストラディヴァリウス「ロード・ニュランズ」（1702年製）。

オフィシャル・ホームページ： <https://www.yasukoohtani.com>
【公式YouTube】「大谷康子のやっこチャンネル」演奏動画続々公開中！

ピアノ **山田 武彦** Takehiko Yamada



©井村重人

東京藝術大学大学院作曲専攻修了。1993年フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院ピアノ伴奏科に入学、同クラスの7種類の卒業公開試験を、審査員の満場一致により首席で一等賞（プルミエ・プリ）を得て卒業。フランスの演奏団体である2e2m、l'itineraire、Triton2等でソリストとして演奏し、現代音楽の紹介を務める。またフランス北部のランス市において大戦後50周年記念式典のために、ヘブライ語による委嘱作品を発表。帰国後はピアニストとして数多くの演奏者と共演、的確でおおらかなアンサンブル、色彩豊かな音色などが好評を博し、コンサート、録音、放送等の際のソリストのパートナーとして厚い信頼を得る。最近では、三浦一馬キンテート、東京グランド・ソロイスト（TGS）などユニークなコンサート企画にも参加している。東京藝術大学招聘教授を経て現在同大学ソルフェージュ分野主任、洗足学園音楽大学客員教授。全日本ピアノ指導者協会正会員、日本ソルフェージュ研究協議会理事、日本ピアノ教育連盟会員。

フルート **佐々木 真** Makoto Sasaki



京都大学在学中、1963年 第32回日本音楽コンクール入選。
1967年 京都大学理学部大学院修士課程修了（物理学）、同年 東京交響楽団にフルート奏者として入団（1970～94年 首席奏者）。
1996年4月 フランス「ポアチエの春」音楽祭に招聘され、イェルク・デームスとデュオ・コンサート。
2002年 東京交響楽団を退団、同年より毎年12月、2021年（第20回）まで東京銀座・王子ホールにてのリサイタルを開催。
その他、各分野における我が国を代表する方々の講演とフルート音楽がコラボレートする「レクチャー＆コンサート」をはじめ各地においてソロや室内楽のコンサートを主宰。
2013～2023年 下総統一賞選考委員。
一般社団法人日本フルート協会前会長、現監事。公益社団法人日本演奏連盟監事。

オープニング

埼玉県立不動岡高等学校 音楽部

埼玉県立不動岡高等学校は明治19年（1886）に創立、今年度で創立140年目を迎える。音楽部は昭和33年（1958）に創部し、現在部員数は1、2年生合わせて34名。週5日の練習を通じて、切磋琢磨し日々活動している。文化祭などの学校行事、地域イベントへの参加、埼玉県合唱コンクールや埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストへの出場など校外で演奏を披露し、今年度の埼玉県合唱コンクールでは金賞を受賞。また毎年バストラルかぞにて定期演奏会を開催し、合唱曲のみならずJ-POPやミュージカルなど幅広いジャンルに挑戦している。令和5年度からは、部活動指導員として埼玉県合唱連盟理事長の國弘雅也氏をお招きし、より高いレベルの演奏を目指し精力的に活動を行っている。

曲目

野 菊 …………… 作曲：下総統一

山 吹 …………… 作曲：下総統一

いっしょに …………… 作曲：木下牧子

不思議 …………… 作曲：金子みすゞ

プログラム

第一部

【出演者】

ヴァイオリン：大谷 康子

ピアノ：山田 武彦

1. 愛の喜び …………… 作曲：F. クライスラー

オーストリアの作曲家、フリッツ・クライスラーが作曲したヴァイオリンのための作品で、ウィーンの情緒あふれる軽やかなワルツ形式を取り入れている。この曲は、愛の喜びを音楽で表現したもので、明るく華やかな旋律が特徴。技巧的なピアノ伴奏とヴァイオリンが絡み合い、幸福感に満ちた雰囲気を作り出す。美しく、愛らしいメロディーは、演奏者にとっても聴衆にとっても、大きな喜びをもたらす名曲として、愛されている。

2. 美しきロスマリン …………… 作曲：F. クライスラー

この作品はウィーンのサロン音楽らしい優雅さと軽やかさを兼ね備えたヴァイオリン小品である。愛らしく親しみやすい旋律と、リズムカルで生き生きとした展開が特徴で、明るく楽しい印象を与える。「愛の喜び」や「愛の悲しみ」とともに「3つの古いウィーン舞曲」と呼ばれ、クライスラーの代表作のひとつとして幅広く親しまれている。

3. 椿姫ファンタジーより「乾杯の歌」…………… 作曲：J. アラルール

ヴェルディのオペラ「椿姫」の有名なアリア「乾杯の歌」を基に、フランスの作曲家、ジャン・アラルールが編曲した作品。アラルールは著名なヴァイオリニストであり、楽器の可能性を最大限に引き出す華やかなパッセージや変奏が特徴。この作品は、原曲の祝祭的な雰囲気を保ちながらも、華麗で技巧的な展開が加えられている。オペラの情熱とヴァイオリンの妙技が融合した、優美で迫力ある作品である。

4. ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」より第1楽章 …… 作曲：L.V. ベートーヴェン

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの「ヴァイオリン・ソナタ第5番 へ長調 Op.24」、通称「春」の第1楽章は、その明るく爽やかな雰囲気から、春の訪れを感じさせる名曲として知られている。ソナタ形式で書かれたこの楽章は、穏やかなピアノの伴奏に乗せてヴァイオリンが優美な旋律を奏でる冒頭から始まり、晴れやかで親しみやすい印象を与える。「春」という愛称にふさわしい、希望に満ちた明るい楽章で、ベートーヴェンの室内楽作品の中でも特に人気の高い楽曲である。

5. ハンガリー舞曲第5番 …………… 作曲：J. ブラームス

ヨハネス・ブラームスが民俗音楽に強く影響を受けて作曲した「ハンガリー舞曲集」の中でも、特に有名で親しまれている曲の一つ。第5番は、情熱的でエネルギッシュな性格を持ち、冒頭のゆったりとした旋律が徐々に加速し、鮮やかなクライマックスを迎える構成が特徴。抒情的な要素とダイナミックなリズムが交互に現れ、ハンガリー音楽の魅力を活分に味わえる楽曲である。

プログラム

第二部

【出演者】

ヴァイオリン：大谷 康子

ピアノ：山田 武彦

フルート：佐々木 真

1. フルードとピアノのための小品より

第1曲、第2曲、第5曲、第6曲… 作曲：下総統一

下総統一の「フルードとピアノのための小品」は、抒情的で優雅な旋律が特徴で、フルードの柔らかな音色とピアノの豊かな伴奏が見事に調和している。日本的な情緒や自然への愛情が感じられる一方で、西洋的な和声や形式美も取り入れられており、東西の音楽文化が融合した作品である。曲は6曲の小品からなっているが、本日は、第1曲「穏やかに」、第2曲「軽く」、第5曲「優雅にゆっくり」、第6曲「軽快に」の4曲を演奏する。

2. 2つのヴァイオリンのための小品より第1曲、第5曲… 作曲：D. ショスタコーヴィチ

ドミートリイ・ショスタコーヴィチ作曲の「2つのヴァイオリンのための小品」は、彼の特徴的なユーモアや抒情性、親しみやすさが凝縮されており、それぞれの楽章が独自の性格を持っている。第1曲は抒情的で穏やかな旋律が特徴で、2つの楽器が対話するように絡み合い、美しいハーモニーを紡ぐ。一方、第5曲は軽快でユーモラスな性格を持ち、遊び心のあるリズムと機知に富んだメロディが際立つ楽曲である。

3. 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ Op.31-2 より第1曲 …… 作曲：P. ヒンデミット

ドイツの作曲家、パウル・ヒンデミットが作曲した、ヴァイオリンのためのソナタ。ヒンデミットは、この作品で、伝統的なソナタ形式を踏襲しながら、現代的な音楽要素を取り入れている。複雑なリズムとハーモニー、そして高度な技巧が要求される演奏は、聴く者を魅了する。ヒンデミットの代表作の一つであり、現代ヴァイオリン音楽の重要な作品として、今日でも広く演奏されている。

4. ツィゴイネルワイゼン…………… 作曲：P. サラサーテ

スペインの作曲家、パブロ・デ・サラサーテが1878年に作曲した、ヴァイオリンのための作品。タイトルは「ジプシーの旋律」を意味し、激しい情熱と躍動感に満ち溢れている。冒頭の哀愁漂う旋律と、中盤からの急速で華麗なパッセージの対比が印象的で、ヴァイオリンの名演目として広く愛される名作である。